

塩野義製薬株式会社 御中

ケニア共和国
Mother to Mother プロジェクト
第 5 年次 中間報告書

2020 年 5 月 29 日

(報告対象期間 : 2019 年 10 月～2020 年 3 月)

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359
URL: <http://www.worldvision.jp>

1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスプコ郡 エランガタ・エンテリット地区
事業期間：	2019 年 10 月～2020 年 9 月（事業 5 年目、最終年）
対象人口：	741 世帯（住民 3,545 人）
年間予算：	2,000 万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等 18%を含む）
活動目的：	水衛生環境の改善を中心としたマルチセクターの取り組みを行い、住民への啓発と意識・行動変容を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。また、下痢と栄養状態を指標として、その効果の調査・研究を行います。

2. 支援事業の目的と内容

本事業の活動地域であるナロク県オスプコ郡は、国内でも貧困度が非常に高い地域の一つです。ケニアとタンザニアの国境付近に広がるマサイ・マラ国立公園にも比較的近いこと、雄大なアフリカの自然や野生動物を目にすることができる一方、電気や水道といった社会インフラは整っておらず、人々は厳しい環境で生活をしています。学校や診療所の数はまばらで、通学のために毎日片道10キロを往復する子どもや、基本的な治療を受けるために体調不良の中、診療所まで遠距離を歩く人々の姿は珍しくありません。また、住民の90%以上を遊牧民のマサイ族が占め、伝統的風習の影響が強く残る地域でもあります。

事業地のナロク県オスプコ郡の母子保健に関する各種指標は、ほとんどの項目でケニア全体の平均値を下回っています。この背景には、保健施設の数と提供されるサービスの量・質が不十分であること、村落保健員と保健施設の協力体制が整っていないこと、村落保健員および保健施設スタッフの能力不足、地域住民の保健や栄養に関する絶対的な知識不足、ジェンダー不平等の問題（保健サービスを利用するかどうかが決めるのは女性ではなく男性であることが多い）などがあります。2015年10月に開始したMother to Motherプロジェクトでは、これら一つ一つの課題に対して、母子保健サービスの強化と人材育成、政策決定者に働きかけるアドボカシー活動に取り組み、救える母子の命を救うことを目指しています。

・ 活動目的

5歳未満児の健康改善と発達、妊産婦の健康改善に大きく関与し、かつ当該事業地でのニーズも大きい水衛生環境の改善を中心としたマルチセクターの取り組みを行い、住民への啓発と意識・行動変容を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。また、下痢と栄養状態を指標として、支援事業の効果の評価および課題の究明のための調査研究を行います。

3. 進捗状況

報告対象期間：2019年10月1日～2020年3月31日

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
1. 水供給施設の整備	水供給施設の整備 ・水タンク建設 ・給水所、家畜の水飲み場の建設、パイプライン延伸) ※4年次の活動の続きで、4年次の残金で実施しています。	水タンク（50m ³ ）の建設完了	水タンクが完成。給水所および家畜の水飲み場は建設中です。 ※自己資金にて、井戸からエランガタ・エンテリット診療所までのパイプライン、エランガタ・エンテリット高校までのパイプラインの延伸が完了しています。
2. 衛生施設の建設方法の普及	① 村落保健員への研修1回 ② 定期モニタリング	① 村落保健員への研修1回実施 ② モニタリング実施中	昨年に研修を受けた村落保健員のうち30人にCommunity-Led Total Sanitation (CLTS) のリフレッシュ研修を1回実施しました。 活動を開始してから、地域住民の意思で計24基の衛生施設が建設されました。屋外排泄ゼロを達成するためには、住民の意識と行動変容が依然求められます。村落保健員は保健省スタッフや村長と共に、各村でのモニタリングや衛生施設の建設促進のための会議を実施しています。

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
3. 村落保健員への水衛生研修	研修 1 回 啓発活動 4 回	研修 1 回実施 啓発活動 1 回実施（活動 5 と同時に実施）	村落保健員 30 人に水の浄化・滅菌方法についてリフレッシュ研修を実施しました。長崎大学の調査結果では、家庭で使用する水タンクの汚染が指摘されています。この指摘を受けて、村落保健員は毎月の家庭訪問において、週 2 回の水タンクの洗浄を推奨するメッセージも伝えています。
4. 学校の保健クラブの研修	3 校	3 校	事業地内の学校 3 校（エランガタ・エンテリット小学校、同高校、イシノン小学校）の児童・生徒計 348 人に水衛生研修を実施しました。 4 年次に提供した水タンクを活用し、石鹸での手洗い習慣の定着を目指します。
5. コミュニティでの衛生指導	継続	継続	村落保健員は家庭訪問の際に、手洗いの重要性の啓発と共に、家庭で作成できる手洗い用設備の普及を行っています。
6. 母子保健研修と啓発活動	村落保健員： 毎月の啓発活動 男性リーダー →宗教指導者： 1 回 伝統的産婆： 1 回	村落保健員： 毎月の啓発活動 宗教指導者： 2 回 伝統的産婆： 1 回	村落保健員は家庭訪問を通じて 116 人の妊産婦に産前産後検診や施設分娩の意義を伝えました。 宗教指導者 19 人に対し、2 回の研修会を実施し、地域住民に対しどのようなメッセージを伝えていくかを話合いました。 その後、宗教指導者は各教会等で母子の健康に関する 6 つのテーマに関するメッセージを 2101

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
			人（累積数）に伝えました。 エランガタ・エンテリットの伝統的産婆 30 人に対し、産前検診の重要性に関するリフレッシュ研修を実施しました。
7. 子どもの成長・発達に関する研修	2 回	1 回	村落保健員 30 人に対して、子どもの成長・発達を促進する遊びやコミュニケーション、安全な環境などについて研修を実施しました。その後、子どもが安全に遊べる遊び場を 4 カ所に設置しました。
8. 貯蓄・貸付グループ活動	2 回（各 1 回）	1 回（合同で 1 回で実施）	既に 2019 年から貯蓄・貸付グループ活動（VSLA; Village Savings and Loan Associations）を開始している村落保健員グループ（イシノン）と伝統的産婆グループのメンバーを対象に、リフレッシュ研修を 1 回実施し、規定の見直しや今後の活動計画を協議しました。これまでに、ローンを活用して、5 人の子どもの学費が賄われたり、食料品販売業事業に活用されたりしています。 エランガタ・エンテリットの村落保健員も 1 月より VSLA の活動を開始しました。

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
9. 巡回診療	12 回（月 1 回）	6 回（月 1 回）	保健省と共同で、毎月 1 回、4 カ所で巡回診療を行っています。 この 6 カ月間で 5 歳未満児 912 人に予防接種を行うことができ、うち 332 人が完遂しました。 また、授乳婦 654 人に完全母乳育児やビタミン A 補給、子どものケア、衛生行動などの啓発メッセージを伝えることができました。
10. 保健省およびパートナーとの定期会合	4 回	1 回	保健省および地域リーダー・村落保健員、パートナー NGO との合同会議を行いました。エランガタ・エンテリット診療所のサービス向上のため現状分析を実施し、今後の活動計画を策定しました。現状分析の結果、喫緊の課題としてあがったのは看護師の増員、医薬品の安定供給、電力の安定供給でした。 この後、新しく政府雇用の看護師 1 名が 12 月から赴任しています。 また電気も安定して使用できるようになりました。
11. 診療所への指導体制強化	4 回	1 回	保健省と協働し、エランガタ・エンテリット診療所の課題を協議し、今後の活動計画を作成しています。
12. 保健サービス管理能力強化	1 回	0 回	3 月に実施予定でしたが、COVID-19 の影響により延期しています。

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
13. コミュニティでの 栄養教育	研修 2 回 栄養教育 2 回	研修 2 回 栄養教育 0 回	M2M グループの母親 47 人に対して、衛生管理、完全母乳育児、栄養価の高い食べ物など、子どもの栄養についての研修を実施しました。研修を受けたグループメンバーたちはその後さらに 432 人の母親たちに学んだ知識を伝えることができました。 村落保健員に対して、妊産婦の妊娠期間別に、その時期に必要な知識やメッセージを伝えるための研修を実施しました。これは、ワールド・ビジョンの事業モデルを用いたもので、適時に適切なメッセージを伝えることができるようになります。 保健省と共に、6-59 カ月の子どもの追跡栄養評価を実施しました。これまでに 144 人の身長・体重などを測定し、栄養不良の子どもには適切な治療・食事を配布しています。栄養不良の子どもは回復するまで追跡評価を受けます。
14. 政府への引渡し会議	3 回	1 回 (活動 11 と同時に実施)	事業終了後の診療所の運営について保健省と協議をしました。本事業で建設した施設を今後も活用し、必要な医療サービスを提供するために、医療従事者の増員（看護師、ソーシャルワーカー）について保健省の合意を得ました。また、診療所の課題につ

支援活動	年間計画	実績	進捗状況
			いて保健省が今後対応していくことも合意しています。今後も協議を重ね、最終的に文書にて合意を行う予定です
15. エンドライン評価	1 回	実施中	長崎大学の調査チームが事業地エランガタ・エンテリット診療所と比較対照地マジ・モト診療所において、下痢検体の採取を実施しています。1 月から 3 月中旬の間に、家畜の検体 17 個、人の検体 119 個、水源から水のサンプルを 30 個採取し、大腸菌やロタウイルス等の有無を調べる検査を行いました。 3 月中旬以降、COVID-19 の影響で検体採取および検体処理・分析を中断しており、十分な数の検体を採取できていません。 ワールド・ビジョンが実施している世帯調査のエンドライン評価は COVID-19 の影響により中断・完了していません。

表 1. 巡回診療で保健サービスを受けた患者数

項目	2019 年 10 月 ～2020 年 3 月
妊産婦（15-49 歳）	
産前健診や周産期保健サービスを受けた妊婦	223
妊婦の産前健診（4 回以上）の受診者	25
専門技能者の介助による出産数/保健施設での分娩数	30
HIV カウンセリング・検査を受けた妊産婦数	88
5 歳未満児	
予防接種完遂児数	332
予防接種未完了児数（脱落等）	25
発育阻害数（stunting）	24
消耗症数（wasting）	13
低体重数（underweight）	41

表 2. エランガタ・エンテリット診療所来院数の推移

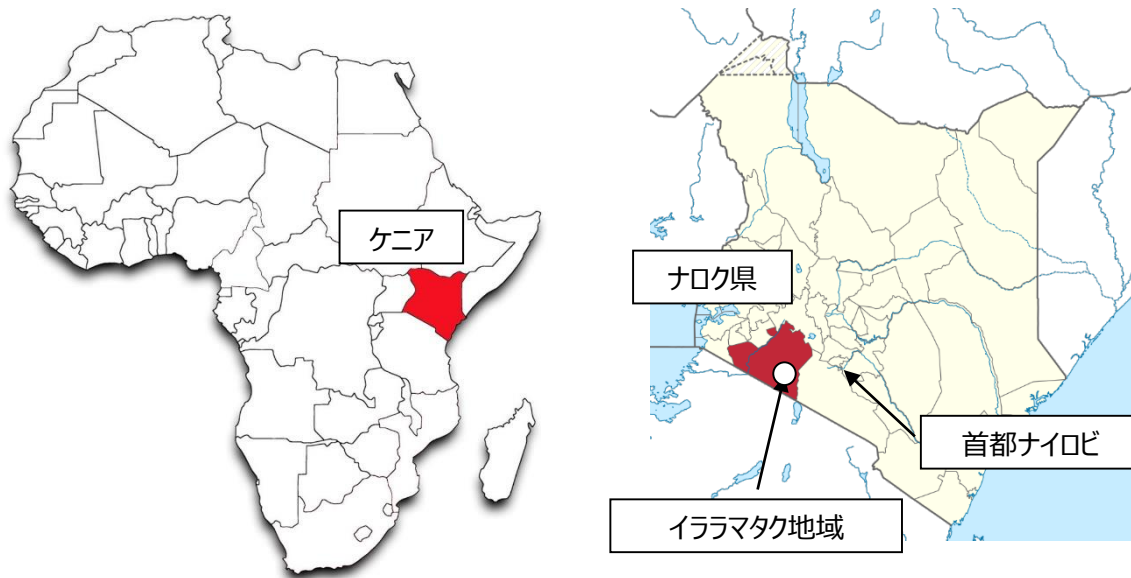
2017 年 10 月～2018 年 3 月	2018 年 10 月～2019 年 3 月	2019 年 10 月～2020 年 3 月
1,667 人	1,800 人	2,404 人

4. 支援事業実施工程表（進捗状況）

活動内容		2019 年						2020 年					
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1. 水供給施設の整備	計画												
	実績												
2. 衛生施設の建設方法の普及	計画												
	実績												
3. 村落保健員への水衛生研修	計画												
	実績												
4. 学校の保健クラブへの研修	計画												
	実績												
5. コミュニティでの衛生指導	計画												
	実績												
6. 母子保健研修と啓発活動	計画												
	実績												
7. 子どもの成長・発達に関する研修	計画												
	実績												
8. 貯蓄・貸付グループ活動	計画												
	実績												
9. 巡回診療	計画												
	実績												
10. 保健省およびパートナーとの定期会合	計画												
	実績												
11. 診療所への指導体制強化	計画												
	実績												
12. 保健サービス管理能力強化	計画												
	実績												
13. コミュニティでの栄養教育	計画												
	実績												
14. 政府への引渡し会議	計画												
	実績												
15. エンドライン評価	計画												
	実績												

【添付資料】

①支援対象地地図



イラマタク地域内エランガタ・エンテリット地区



②進捗状況写真



完成した水タンク。
井戸の近くの小高い丘の上に設置。
井戸からポンプで水を汲み上げて水
タンクに貯め、町に建設している給
水所までつなぎます。



各家庭にある物を使って設置した簡易
手洗い設備で手を洗う住民。



貯蓄・貸付グループ活動で、一人ひとりから集金をし
ている様子。



M2M グループを含む母親に母子保健や栄養について講義をするエランガタ・エンテリット診療所の準医師。



家畜から検体を採取している様子
(長崎大学による研究)



世帯から水サンプルを取得
(長崎大学による研究)

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当: 平田 (マーケティング第1部 法人・特別ドナー課)